

令和2年度(第32回)ポンペ賞受賞者



長崎大学医学部では、創設者であるポンペ・ファン・メールデルフォールトを記念して新卒業生を対象に、ポンペ賞が設けられています。表彰状とともにブロンズのポンペのレリーフをはめ込んだ立派な盾が毎年少なくとも3名の受賞者に卒業式の日授与されます。6年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。

成績優秀者（学業成績 上位3位）

ポンペ国際学術賞



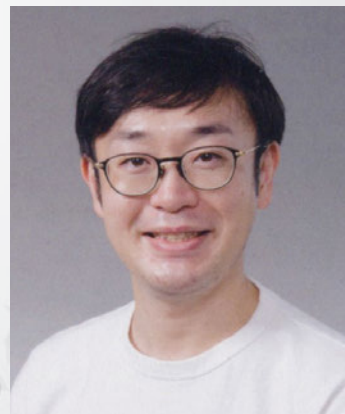
井上 知晃



浦 華子



梅村 ゆりあ



古川 智偉

コロナ禍で頑張る臨床実習生の今

COVID-19の流行により、オンラインによる実習（講義やPBLなど）と対面による実習のハイブリッド形式が当たり前となりました。コロナ禍での実習で特に印象に残っていること、4月から始まったクリクラ（clinical clerkship）への意気込みについて聞いてみました。

6年 春野道子さん

コロナ禍でのポリクリで特に印象に残っていることは、オンラインポリクリ最初の熱研内科の講義です。人と気軽に会えない中、久方ぶりにポリクリメンバーと画面越しに再会出来た時は安心したことを覚えています。講義では、最前線で働かれている先生方から、現場の状況、PCR検査の信憑性、感染者数の推移に関して等々、ニュースや文献で知り得ない、まさに今の情報、知識を学びました。1年後の現在、当時を振り返ってみると、頭の中で様々な情報が散らばっていた“コロナ”が、ようやくこの時に“COVID-19”という明確かつ正確な形で認識出来たように思います。長いオンライン期間の中で、最初に熱研内科の講義を受けられたことは、私にとって非常にありがたいことでした。4月から始まるクリクラでは、実習出来ることに感謝しつつ、ポリクリで出来なかった外来実習に積極的に参加し、講義では知り得ない現場の雰囲気、ポリクリの時以上に、存分に味わいたいと思います。

6年 狩野真由子さん

コロナ禍の実習は、実習時間の短縮や実習内容の変更などで、例年とは大きく異なるものでした。特に、感染症対策のため、実習生が患者さんとお話する機会を得ることは難しくなりました。患者さんとの対話の中には、症状や現在に至るまでの

変化、原因、心境など沢山の情報が詰まっており、とても学ぶことが多いです。ある患者さんには、「あなたに自分の体験をお話しすることができてよかった。生き延びてよかった。頑張っただけのお医者さんになってね。」と激励の言葉をかけて頂き、より一層精進しようと決意することもありました。

現在は、佐世保市総合医療センターの循環器内科で実習を行っています。患者さん、指導して下さる先生方、コメディカルの方々、医療機器メーカーの方々といった多くの人との関わりの中で、日々沢山勉強させて頂いています。実習に参加できることの有難さを噛みしめながら、クリクラでの実習に積極的に取り組みたいと思います。



佐世保市総合医療センター循環器内科での実習風景

新しい生活様式から春休みに得た新しい機会

医学部医学科3年生 郡嶋 望

新型コロナウイルスの流行が日本、そして世界に広がって約1年が経ち、ソーシャルディスタンスの意識や三密回避などのウイルスとの付き合い方に皆が慣れてきて、緊張を緩めることはできない中でもコロナ以前の日常が戻ってくる兆しが見え始めたタイミングでの2021の春でした。このタイミングでの春休みを大学生たちはどのように過ごしたか聞いてみると、大学からの移動規制の緩和のおかげで久しぶりに実家に帰省をしたとの声がとても多かったです。他にも「料理を頑張った」や「お散歩をした」、「キャンプをした」といった話を聞き、一人でできるようなものや、人との接触をコントロールできるような過ごし方に皆が適応してきているのを感じました。そんな中で私が春休みにした初めてのことをこの記事で話したいと思います。

それは「画像診断塾」という取り組みです。これは医療現場での画像診断を遠隔で行っている一般企業さんが、現役の医学生に現場ではどのような診断を行っているのかを大学とは違う視点で知ってほしいという気持ちで開催してくださっているものです。以前、この塾の開催は対面形式で行っており、その会社の近くの大学の学生しか参加することができなかったのですが、このコロナ禍でZoomを使った講義も可能だとわかったこと

で今回から遠隔と対面のハイブリッド型での開催となり、長崎大学からも参加させていただきました。塾では実際の臨床現場で行ったCT画像での診断やIVRの治療過程をたくさん症例を実際の画像を使って解説していただきました。実施当時2年生が終わったばかりの私は、まだ臨床での治療の進め方は知らないことだらけで、更にたくさん症例を見てほしいということで一つの症例に充てられる時間が短く、3時間ほどの受講をし終わった時には丸一日の講義だったと思うくらいに疲れ果ててしまいました。今回の塾には他大学から医学科の5.6年生も参加しており、先輩方の講義の聴き方や先生からの質問への答え方を見て、これから3～4年で私たちが勉強する必要のある事項の膨大さを感じ、新学年からの勉強の起爆剤としてもいい経験を得られました。この塾はこれからも毎月開催されるので少しずつでもすでに参加している先輩方に追いつけるように頑張りたいです。

これを書いている2021年4月末、新型コロナウイルスが全国で再び流行傾向にあります。私たちがコロナに対して適切な行動をとり続けることで、来年の春休みにはコロナ以前の日常が戻ってくることを願います。

リサーチ セミナー

今年の1月から2月にかけて、3年生現4年生はそれぞれ研究室に所属してリサーチセミナーを行いました。例年は韓国やベラルーシ、イタリヤなど国外での研究活動をする学生もいますが、今年はCOVID-19の影響で国内のみの研究活動となりました。今回はリサーチセミナーを受けた現4年生2人に、リサーチ体験談を聞きました！

国内リサーチ 熱帯医学研究所 生態疫学部門

武田 玲依奈さん

●研究内容

I「途上国における電子母子手帳普及関連の取り組み」

出生登録の整備の遅れや周産期医療が行き届いていないアフリカやアジアの中低所得国での「電子版」母子手帳「WIRE」を普及するために。ビジネスモデルの構想やIoTのためのシンポジウム開催計画などを行った。様々なセクターの観点から「WIRE」の特性を分析し、改善点やセールスポイント等を探り、現実的な導入を目指す。

II「新型コロナウイルス感染症によるサブサハラアフリカの妊娠率上昇の背景探索」

タイムリーな話題でもあるコロナ禍のサブサハラアフリカの妊娠率上昇という話題から、その原因となる歴史や文化、教育、医療の現状を探索し、

●ビジネスの視点

1つ目のテーマである電子母子手帳「WIRE」の開発研究に際して、伊王島での1泊2日の企画合宿に参加した。WIREの途上国への導入をビジネスモデルで考えるため、運用シミュレーションやセールスレターの作成を行った。学生ならではの自由な発想は評価していたものの、研究者や企業の方々の高い専門性に圧倒され、刺激的かつ有意義な経験となった。

●第2位受賞!!

今回、私を含め3人で共同のリサーチを行ったのだが、その成果の一部を「長崎大学ブラネタリーヘルスアイデアコンテスト」で発表する機会を得た。アイデア発表ということもあり、サブサハラアフリカに性教育を提供するアプリ「OSE」の開発について発表し



表彰の様子

た。アプリ開発のための資金調達や広報、デザイン等、普段の医学の勉強から少し離れた視点から試行錯誤して理想のアプリを開発していくことは学びが多かった。コンテストの結果は第2位で、賞品としてAlexaスピーカーを3台もいただき、3人で大喜びした。

●リサーチを通して

私が「サブサハラアフリカの妊娠率上昇」という課題に目を向けたきっかけの1つに、2020年3月にザンビアのジンバという田舎町にある病院の産科病棟で3週間の研修を受けたことがある。そこで、家族計画不足の多産妊婦や、中学2年生での予期せぬ妊娠、HIV感染者の多さ、レイプが疑われる幼い少女の尖圭コンジローマの症例など、十分な性教育が実施されていないので

はないかと思われる症例に多く出会い、途上国におけるリプロダクティブヘルス分野への興味を持った。今回COVID-19の影響でケニア派遣は見送られてしまったのだが、電子母子手帳導入にせよ性教育アプリ開発にせよ、「現場の視点」の重要性を再確認した。WHOやUNICEFのレポートをいくら読んでも、真に必要なものやプロジェクトの持続可能性を正確に理解することはできない。これは途上国支援のみに該当するわけではない。今後は、どんなことに対しても、理論と現場のギャップの存在を意識して取り組み姿勢を忘れないようにしたい。

国内リサーチ

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 分子標的医学研究センター 西山 樹さん

●研究内容

私を取り組んだのは「抗がん剤の新規薬効予測バイオマーカーをがん細胞株やデータベース等を用いて解析する」というものでしたが、その中でも「Pam1機能阻害下での染色体倍加亢進と関連する因子の解析」に焦点を当ててリサーチをしていました。

研究背景として、オラパリブなどのポリ（ADP-リボース）合成酵素（PARP）阻害剤はDNA修復を阻害し、相同組み換え修復異常、BRCA変異を有するがん細胞に作用する合致死性の抗がん剤として報告され

ており、毒性も低いことから乳がんや卵巣がんに対して長期での投与も期待できるものとして扱われています。それらががん細胞においてバイオマーカーが確立されれば、より効果的に臨床での応用も可能であるので、数あるバイオマーカー候補から、どれが有力なものか特定したいという現状があり、私はその候補の中から1つをピックアップして実験と関連因子の解析を進めていました。

●リサーチを通して

例年このコーナーは海外リサーチ組が報告として

て寄稿していました。そして本来私も様々な準備を経て、ドイツのヴュルツブルグ大学で2-3か月リサーチをする予定だったのですが、昨年冬の欧州でのロックダウンを受け、渡航が出来なくなり、国内組と合流することになったという、なんとも気持ちの上がらない出だしになったことを覚えています。ドイツでは心臓血管系や循環器系のリサーチをする予定だったので、だいたテーマは変わってしまいましたが、分子標的医学は過去にもゼミで受講していたこともあり数居が低かったこと、最先端の研究をして

ていること、そして国立がんセンターに何日か行けることなど、個人的に魅力的だったので選びました。

年明けからリサーチが始まりましたが、当時長崎で感染者数が多かったこともあり、最初の2週間が各研究室オンライン開催になりました。これが例年と今年の大きく異なる点だったと思います。国内リサーチは2か月しかなく、2週間リアルが削減してしまつたこととで、スケジューリングが解析してしまつたこととで、スケジュール的にたおかげで今や1人で上記の作業が出来るようになり、確かな実力が付いた感じがあつたので、同じ研究室に配属された同級生達と自己肯定感を上げていた日々でした。私は外科志望で、正直研究には全く興味が無かったのですが、実験をして

データをとめて先行研究に関する論文を読んだりしているうちに、将来臨床だけの知識で医者をするとおそらく限界があるのだろうと感じました。そういう気づきがあつたこともリサーチから得られた大きな収穫の1つです。

コロナの影響で元々予定していたドイツにも、そして国立がんセンターにも行くことは叶いませんでしたが、結果、入学以来一番身になった日々だったと思います。忙しい故か、あつという間の2か月でしたが、自分の研究をしている傍ら、ビギナーの私たちの面倒を丁寧に見てくださった先生方の負担は計り知れないものだったと思います。益谷先生や小野寺先生をはじめ、分子標的医学研究センターのお世話



「コロナ禍での大学生生活の過ごし方」 5年 清原 翔徳

新年度になり、新しい生活環境が始まりました。まずは、新入生の皆さまご入学おめでとうございます。COVID-19の影響により、学生の行動に制限がかかったりと思うように活動できない状況ですが、この状況下でできることに努め、学生生活を120%楽しんでいただきたいと思います。コロナ禍での大学生の過ごし方について自身の生活や友人から聞いたことを元にご紹介したいと思います。新入生をはじめ、学生の皆さんに楽しんでいただければと思います。

【まとめ】 これまでは部活を中心に生活していた人（勉強は最小限…）という人たちが、部活動が出来ない分勉強（医学だけに限らず）を頑張るようになったことや、これまではそんなに運動に関心がなかった人も筋トレ・ランニングを頑張るようになったことに驚きました。現在の自粛期間は、窮屈に感じるかもしれませんが、自分を見つめなおして新たな自分の可能性を見つける期間にできるかもしれません。皆さんも自宅で楽しめることを模索してみてください。COVID-19で大変な状況が続きますが、感染対策に努めながら学生生活を最大限楽しみましょう。

COVID-19 流行前	・部活に全力！！（なんたって長崎体育医科大学） ・飲み会で友情深める（あんな話やこんな話も） ・いろんな場所へ旅行にGO！（しっかり映えましょう） ・バイトを頑張る（良い社会勉強になります）
現在	・Zoom飲み（Among us（アプリ版人狼ゲーム）が流行ってます） ・部活できない分筋トレやランニング ・勉強（医学の勉強だけではなく、時間がとりやすい今だからこそ、英語や韓国語などの外国語を頑張る人も！） ・Amazon prime、Netflixなどで映画鑑賞（愛の不時着、5つ星ツーリストなどがおすすめです） ・お菓子作りや料理（体重も嬉しい悲鳴を上げてます） ・ベッドで一日中ゴロゴロ（一番贅沢な時間の使い方も!?）

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
肉眼解剖学 教授

患者さんに1番身近に接することができ、診療科はなにか考えて、色々な選択肢はありましたが整形外科を選びました。先程の人を助けられることに通じますが、整形外科ならご不自由な人を楽にしてあげられる、ということに魅力を感じました。あと当時は整形外科の先生がリハビリテーションを担当していて、そこにも興味がありました。整形外科は命に関わる疾患ではないのです。が、目に見えて回復され

医の先生を対象に、生前に同意を頂いたご遺体を使った手術手技の確認と局所解剖実習を、2017年から年に2回ほどやっています。ホルマリン固定では手術とかなり違うので、ホルマリン濃度の低いやわらかい固定方法で行っています。臨床医の先生方も積極的に、それもやりがいのある仕事です。九州でやっているのは、今のところ長崎大学と産業医科大学だけだと思います。

教育が大変ですね。解剖
実習でクラスターが發生

知識量はそんなに変わら
ないくらいだったと思う

代で、内科か外科だと外

院医齒美
講座呼吸
教授

風な診察や治療をしていくかを検討したり、色ん

（迎教授は、中高時代年

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
展開医療科学講座呼吸器内科学分野
(第二内科) 教授

では違って、大学の仕
た20歳前後の患者さんの

●●● PM ●●● 恋愛コラムニスト 豆乳

皆さんこんばんは、コロナ事変が勃発してからはや1年、あっという間でしたね。春は出会いと別れの季節ですが皆さんはいかがお過ごしでしょうか。親しい人が引っ越してしまった人、新しい環境になった人、家の近所で普段見かけない人をよく見るようになった人。春はいつも出会いに溢れていて、爽やかな風が吹いています。ヴィヴァルディの春ではなく夏のような少しドキドキして胸がざわめくような、私にとっての春はそんな雰囲気で、そんな春が私は好きです。



さて、今号も読者の方々から寄せられた相談の中からピックアップして回答していきたいと思います。

Q1. 少し前に恋人と別れてからプチモチ期が来ました。正直少し調子に乗っていたのかもしれませんが。普段弟扱いしていたサークルの後輩に飲んだ流れて告白され、私も酔っぱらっていたし、付き合うことは考えられなかったので「遊びならいいよ」と心にもない事を言ってしまった。私はもう卒業するし、向こうはまだ19です。今から付き合っても私に未来はないし、後輩のケアもしないといけないし、けれどどこかでちょっとはいいんじゃないかな、という気持ちもあります。(24歳 女性 ブルベ)

A. 女性の医療系の職種って出産や自分のキャリアを考えるとやっぱり結婚のタイミングって難しいですね。ブルベさんの迷いはそこからきているのだと思います。仮に今からその後輩と付き合っても何年も待つことになるし、待った先に結婚できるとは限らないし、20代後半で社会に放流されても婚期を逃し続ける可能性が高いだけだし、リスクですよね。それらの理由で私はその後輩と付き合うのはオススメしません。それに、どう告白してきたかは分かりませんが、その後輩へのリスペクトが欠けていますよね。しっかりケアすべきだと思います。と、というのが私の意見ですが、それらのすべてを差し置いても、改めてその後輩の事が恋人としていいなと思えたり、先のことはその時考えようと思えたりすればこの1年だけ付き合ったり、その先も付き合ったりすればいいのではないのでしょうか。将来の進路は結局ブルベさんが決めるように恋人のことを決めるのもブルベさん自身だだと思います。その時々で悔いのない選択をすればよいと思います。ブルベさんならきっと大丈夫。

Q2. 5年以上付き合ってる人がいます。お互いの年齢的にもそろそろ落ち着いたら結婚したいな、と思っていたのですが、この春からその恋人が県外で新しい仕事を始めました。このタイミングで、と本心から思いました。恋人を追いかけたい気持ちがある一方、僕自身その県で働くことは難しいな、と思う現実的な問題もあります。迷っています。(25歳 男性 乳酸菌)

A. なるほど、乳酸菌さんは、そんなに長く付き合っていてこのタイミングで離れてしまったんですね。そのことに関する相談がどの程度されていたかによりますが、あまりされていなかったのなら、改めて将来について話してみるべきだと思います。話していてそれなら、お互いに仕事でやりたいこともあるだろうし恋人を尊重してください。私は将来を考えるならこのタイミングで別れても何ら不思議ではないと思います。確かに長年付き合っていてこの決断をすることは難しいかもしれませんが、乳酸菌さんの将来を考えるとそうせざるをえないかな、と思います。そういう候補も持ちながら改めて恋人と話してみてください。どんな結果になっても乳酸菌さんにとってよい未来を祈っています。



今号の映画紹介

富田 藍子

『母と暮らせば』

監督：山田洋次 主演：吉永小百合・二宮和也

井上ひさし原作の同名小説を映画化したもの。

1948年8月9日、長崎一。助産婦をして独り暮らす伸子(吉永小百合)のもとに、3年前、長崎医科大学の授業中に原爆で亡くなったはずの息子、浩二(二宮和也)がひょっこりと現れる。元氣かと尋ねる伸子に、浩二は笑い出し「元氣なわけなかやろ、僕は死んどるとよ。」と返す。他愛もない思ひ出話をしながら紡がれていく時間、特に浩二が気にかけているのは結婚の約束をしたままだった幼馴染の町子(黒木華)。小学校の教師をしている彼女は3年間ずっと、心の行き先を失ったまま伸子のことを気にかけてくれている。一町子には僕しかおらんよ。自分はもうこの世の人ではないとわかっているけれど、受け入れられない思いを抱える浩二。

母と息子、二人で過ごす季節は奇妙だったけれど、いとおしくて楽しかった。その幸せは永遠に続くように見えたが――。

一人の医学生等の身大の若さ、人の温かみ、色々な想いの形を目にすることができる作品です。派手な演出ではなく、繊細で確かな演技力とシンプルでクラシカルな雰囲気が魅力で、あるものを用いて原爆を表現したシーンはとても印象に残っています。また、方言の柔らかな響き、実際の長崎の教会や路面電車を使った場面を探してみるのも楽しみ方の一つかもしれません。夏、原爆投下の日を前に「祈りの長崎」を感じてみませんか。

『レナードの朝』

監督：ペニー・マーシャル 主演：ロバート・デニロ、ロビン・ウィリアムズ

1920年代にヨーロッパで発生した嗜眠性脳炎による重度のパーキンソン病の実話をもとにした映画。引込み思案の研究医セイヤー(ロビン・ウィリアムズ)は精神科に勤めることになり、30年間眠ったまのような患者たちを目にします。その中でも少年時代に発症した患者レナード(ロバート・デニロ)との出会いが話を大きく動かします。

患者たちの症状の原因がパーキンソン病であることに気づいたセイヤーは、当時開発されたばかりの新薬「l-dopa(エルドパ)」を投与することにします。探り探り投与量を増やしていったある日の夜、レナードが窓辺で月をながめているのを発見します。「いま、目覚めたよ」。

薬は劇的な効果をもたらし、患者たちの止まっていた時間が動き出します。家族と過ごす者、夫婦で踊りだす者、その中でも起きたら大人になっていたレナードにとって世界は驚きと輝きに溢れています。

(※この後さらに詳しいあらすじに関する記述があります。ネタバレがあまり得意でない方は飛ばしてください)

ところが、そんな幸せな日々の中、思いもよらなかったことが起こります。それは、薬効が徐々に減弱していること、そして投与量に比例して悪化していく副作用でした。徐々に思い通りにならなくなっていく体、また同じ状態に戻ってしまうかもしれない恐怖と不安の中で、レナードが、そしてセイヤーが得たものとは――。

初めて見たときは、俳優さんたちのあまりに真に迫った演技に嗜眠性脳炎が怖くて仕方なかったことを覚えています。映画内での描写は正確とは言えないようですが、パーキンソン病と治療について勉強したときには、この映画のことを思い出します。

映画の原題である『awaking』が示しているもの、思わずためらうセイヤーに向けてレナードが叫んだ言葉とは？患者と医療者との間にあるもの、医療の意味と本質、人間の尊厳と愛について考えさせられます。医療と人間を取り巻く環境が大きく変化している今一度、見直してみたい映画です。

ガパオライス



〇材料(1人分)

豚ひき肉(鶏ひき肉) 100g
パプリカ …… 1/2 個
玉ねぎ …… 1/4 個
ちんげん菜 …… 1 束
にんにく …… 1 片
卵 …… 1 個
ナンプラー …… 大 1/2
醤油…小1 豆板醤…小1
砂糖…少々 塩胡椒…少々
ごま油…適量

1人暮らしのレシピ集♪

ガパオライスはタイの料理です。ナンプラーさえ揃えれば、難しそうに見えて実は簡単。スーパーでその日の安い野菜を混ぜ込んで自分流のガパオライスを楽しんでみてください！

〇作り方

①にんにくはみじん切り、パプリカと玉ねぎは2cm角くらいに切る。ちんげん菜は3分ほど茹でて5cm幅に切る。
②ナンプラー、醤油、豆板醤、砂糖を混ぜ合わせる。
③フライパンに油を引いて、にんにくを入れ、香りがたってきたらたまねぎ、パプリカ、ひき肉、ちんげん菜の順に炒める。
④②でつくったソースを流し入れて混ぜる。
⑤最後に好みの固さに焼いた目玉焼きを乗せてできあがり！

編集後記

昨年度はずっと家に籠って授業や勉強に取り組んでいたせいか、もう自分が3年生であることに驚いています。最近の流行りは陶器のお店や古物屋に行つて掘り出し物を探すことです。大概人もないので安心です。(店主さんがどこかへ消えているお店もしばしば)まだ良いものは見つけられていません。まだまだ探し続けます。今年度もぐびろが丘新聞をよろしく願ひします。(3年 夫津木綾音)

今号の記事では春休みの真面目な過ごし方について書かせていただきましたが、もう1つ始めて経験としてキャンプに行つてきました。天気予報を見ずに行つてしまったため、夜から雨が降り始めて一晩中暴風雨によつてテントの壁面が体に叩きつけられ起こされ続ける、びしょ濡れの夜を過ごしました。そして翌朝には外に置いていた荷物が私たち以外に誰もいないキャンプ場に散乱している惨状が広がっていました。これからは天気予報を日頃からチェックしようと思います。今年度もよろしく願ひします。(3年 郡嶋 聖)

4年生になった武田です。やっと学生生活折り返し地点に来ました。今回は最近の購入品のネタを。花粉対策に思い切つて空気清浄機をポチつてみました。少しバカにしていたましたが、1台でハウスダストがびたりと止み、部屋が澄んだ気がします！加湿機能がついているものがおススメです。次はプロジェクター購入を企んでおります(笑)今年度もよろしく願ひします。(4年 武田 玲依奈)

正直「真面目」とは程遠い医学生だった今まででしたが、リサーチ以降ラボで研究を進め、春の風を感じながら研鑽している日々です。学年を留まることになりましたが、この1年は学会発表に加え、昨年できなかった海外大病院での中・長期での実習など、医学生として自分の身になる年になりそうです。新聞部も予定より1年長い付き合いとなりました(笑)今年度もよろしく願ひします。(4年 西山 樹)

いつのまにか5年生になり、改めて先輩方の大きさを感じ、我が身を振り返つては愧れている富田です。今回は映画紹介を担当させて頂きました。実は、当コーナーでは、1つは医療モノを、もう1つはそれ以外を紹介するようになっていきます。自分の好きな作品をおすすめるのは、なんとなく気恥すかしくもあり、苦勞したこともありましたが、とても楽しかったです。他にも、部員全員の工夫と汗と涙(?)が詰まったぐびろが丘新聞、是非ご覧ください！(5年 富田 藍子)

ついに5年生になりました清原です。ポリクリが始まり日々刺激を得ています。今後の進路について真面目に考え始めたり「学生生活の終わり」を意識し始めています。一生の思い出になるような思い出をたくさん作っていききたいと思います。新聞という形でも自分の爪痕を残そうと思いますので皆さんこれからもぐびろが丘新聞を読んでください。(5年 清原 翔徳)

最終学年になった金好です。新聞部に誘ってもらったのが最近のよう感じ驚いています(笑)今回はコロナ禍でも日々頑張る臨床実習生の声をお届けできればと思います。今年度もどうぞよろしく願ひ致します。(6年 金好 智子)

まだ6年生と名乗ることに緊張をおぼえる山内です。1つ上の先輩方の卒業を見送り、記憶の新しいうちにポンペ賞の記事を書いたためか、自分の卒業に身構えて実習に励んでいます！記事の執筆もあと1、2回ですので、今まで以上に心を込めたいと思います！(6年 山内 翠)